

美術館だより

Contents

- 1 企画展「35周年記念 かいけつゾロリ大冒険展」より（五浦美術館）
- 2 新館長就任の挨拶 実物の記憶（近代美術館）
- 3 企画展紹介「つくる展 TASKO（タスコ）ファクトリーのひらめきをかたち」に（近代美術館）
- 4 企画展紹介「35周年記念 かいけつゾロリ大冒険展」（五浦美術館）
- 5 企画展紹介「顔展—どうしてそんな表情—」（五浦美術館）
- 6 令和5年度 新収蔵作品紹介（近代美術館）
- 7 企業パートナーシップ事業
- 8 インフォメーション

No.128

June 27, 2024

天心記念五浦美術館
「35周年記念 かいけつゾロリ大冒険展」より



©原ゆたかノポプラ社

いたずらの王者をめざすキツネの主人公ゾロリと仲間たちの大冒険を描いた『かいけつゾロリ』シリーズが出版35周年を迎えました。ストーリーの原作者・原ゆたか（1953-）によって絵も描かれ、1987年の第1作『かいけつゾロリのドラゴンたいじ』以降、およそ年に2冊のペースで刊行され、これまでに第74作までが出版されています。累計3500万部を超える児童書の人気シリーズで、アニメ化によって、その人気にさらに拍車がかかりました。2022年末には35周年記念作品として、劇場アニメの最新作「映画かいけつゾロリ ララ

ラ♪スターたんじょう」も公開されました。

本展では、これまでの大冒険の歴史を振り返る貴重な原画作品、資料など約200点に加え、ゾロリが集めた「お宝」も立体作品になって登場します。また原作者・原ゆたかのアトリエ再現や、作中の名場面を元にした撮影スポットもあり、様々な角度から『かいけつゾロリ』シリーズを追体験することができます。

この夏は、魅力たっぷりのゾロリワールドをぜひ、お楽しみください。

〔天心記念五浦美術館 主任学芸主事 大津友美〕

対面授業とオンライン(遠隔)授業、この言葉があたりまえの学校の毎日を変貌させました。コロナ禍のなかで東京の自宅から毎週、新幹線通勤をして、愛知県の大学で授業をしていた私の日常も変わりました。勤務していた中部大学には総合情報センターがあり、大学の管理するメールの送受信で大学と自宅また教員間の連絡ができ、別途、教務支援課の管理するメールで学生と教員の連絡が可能でした。オンライン授業は通勤がないものの毎日つねに大学と自宅がネットでつながり、苦勞も多かった反面、学生と従来、考えられなかった関係で授業ができたように思います。

いまの大学生は対面授業のなかでは、私の指導の限界もあったのですが、あまり活発に発言してくれません。とくに担当した「芸術の世界」では140人の履修者が大教室で聴講する形式なので、学生ひとり一人の感想や意見は、授業内で書いて提出する筆記レポートでしかわかりませんでした。しかしオンライン授業では毎週の予定授業日の前に課題を全員に一斉メール送信して、締め切り前後にそれら全てに目をとおり、添削こそ難しかったのですが、少なくとも採点する作業をおこないました。その作業のなかで、私はいくつかの貴重な体験をしました。ひとつは画家の生涯や作品解説といった情報内容の課題はチャットやブログなどの情報で調べて、だいたい似たような解答であるのに対して、自分の着眼点や感想といった主観的な課題には、実に多様で思いがけない解答があったことです。それはまるで学生の内面をみているようで、友だちに話しかけるような口調だとか、こちらが赤面してしまうような気持ちの吐露だとか、若い人々独特の表現に満ち溢れており、表現方法と思考回路の点だけでも興味深いものでした。なによりも意外だったのは、若い人たちの授業「芸術の世界」を履修した理由は、まず素朴に「美術作品の見方を教えてほしい」という希望であったこと、その希望の背景には、まだ美術館には行ったことがないが、本物と向かいあったとき、どのように見ていくのか、その方法を教えてほしい、という内容でした。そうした希望の行く先には、私の推測ですが、実物から感動を得たい、という感覚的な希求があると思いました。その希求とはなんでしょう。

「博物館概論」という学芸員資格取得のための専門職教育プログラムで行う「モノ(オブジェクト) 介在型学習(Object-based Learning: OBL)」という指導法がありま

すが、私は対面授業の講義のなかで、学生ひとり一人に自分の宝物を紹介してもらうやり方を採りました。教室に自分の宝物を持って来てもらい、大きなものやペットなど生き物の場合は写真や絵で紹介してもらいました。可能な限りPCやスマホなどの情報機材を使わないで、実物で紹介してもらう方法です。

Tシャツやディズニースーツのお土産など様々な品々のなかで、とくに多くの学生が宝物にしていたものに御朱印ごしゅいんがありました。神社やお寺をお参りしたときにいただく御朱印です。みなキレイな御朱印帳に保存して大切にしていました。生まれたときからPCやスマホという情報環境で育った若い人たちは、かえって御朱印という実物の証と記憶を大切にしている、とそのとき感じました。また美術館情報をスマホで検索する以外に「三つ折りパンフレットという紙媒体の小さな冊子があり、私の宝物はそれです」と発表した学生がいました。このように、あらゆる実物に對峙しながら自分の五感、感性を全開にして身体で感じる、ささやかですが、そうした世界を大切にしている、という現実を知ったわけです。

AI(人工知能)という言葉は、実は私が生れた年には、もうすでに登場していたようです。美術作品のデジタル化やバーチャルミュージアムという伝達手段のあるなかで、実際わたしたちは美術館に行くことなしに、スマホの動画や静止画から多くのアートの疑似体験ができます。そうした時代に一体、美術館に何が可能なのか。これは難しい課題ですが、コロナ禍の大学の教員生活のなかで私が学生から学んだこと、そこにこそ、潜んでいるような気がしています。実物の記憶です。

美術館の将来、これは難題ですが、私はいままでの私の経験した15年間の県立美術館での学芸員生活、約15年間の私立美術館での学芸員としての体験、そして7年間の大学教員としての体験のなかで学んだことをいかして、地に足をつけた方法で、ひとつひとつ着実に希望を実現できればと思います。

尾崎正明・前館長が10年間の茨城県近代美術館の館運営のなかで築かれた組織、経済基盤をひきついで4月に着任したばかりですが、どうぞよろしくお願いいたします。



企画展紹介 つくる展 タスコ TASKOファクトリーのひらめきをかたちに

会 期：2024(令和6)年7月20日(土)～9月23日(月・振)
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：月曜日 ※ただし8月12日[月・振]、9月16日[月・祝]、9月23日[月・振]は開館、翌日休館
入 場 料：一般1,000(870)円／満70歳以上500(430)円／
 高大生730(610)円／小中生370(240)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※9月15日[日]～21日[土]は満70歳以上の方は無料
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
 ※夏休みをのぞく土曜日は高校生以下無料
主 催：茨城県近代美術館
後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／
 産経新聞水戸支局／東京新聞水戸支局／
 日本経済新聞水戸支局／毎日新聞水戸支局／
 読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送
協 力：大人の科学／Gakken
企画制作：東映株式会社
企画協力：株式会社TASKO

展覧会の概要

美術やデザイン、機械、舞台など多ジャンルの専門家が集まる、ものづくりのプロ集団「TASKO(タスコ)」。
 明和電機(筑波大学芸術研究科を修了した土佐信道プロデュースによるアートユニット)の出身者らによって
 2012年に結成されました。彼らは、その豊かな発想力
 と優れた技術力で、多くの映像や広告物、アート作品な
 などを手がけてきました。

本展は、TASKOのユニークなものづくりの秘密にせ
 まる展覧会です。現代アートとしても見応え充分の、う
 ごく・さわれる・体験できる作品を多数展示。磁力や風力
 をつけた装置や、光や影の特性をいかしたインスタ
 レーション、音や香りがでる作品など、五感で楽しめる

作品がせいぞろいします。ものづくりの不思議さや面白
 さを通して、大人も子どもも想像力・発想力・創造力が刺
 激される、そんな幅広い世代で楽しめる展覧会です。

みどころ

1. 子どもも大人も五感を使って楽しめる！

《ひかりの3原色》では、RGB(赤、緑、青)の光源の前
 に立つと色のついた影ができ、光の三原色を体感できま
 す。《札幌ループライン》では、レトロな音楽に浸りながら、
 札幌の町並みの影が移り変わっていくさまを鑑賞。《パ
 フューマリー・オルガン》は、鍵盤を押すと同時にその音
 に対応した香りが出る装置で、自動演奏のほか、来場者
 が自由に演奏可能です。

2. 作品の動くしくみやしかけが分かる！

《うかぶ風船》《FLOWER DISPLAY》などでは、それ
 ぞれ風力や電力などの動力による動くしかけが楽しめま
 す。水ならぬパチンコ玉で動く《ししおどし?!》をはじめ、
 多くの作品でスケッチ資料や作品に使われた部品も展示
 し、動くしくみを分かりやすいように紹介します。

3. 制作の裏側や発明のきっかけにも触れられる！

本展ポスター・チラシ等のキーヴィジュアルにも登場す
 る《TASKOの棚から》では、TASKOが制作に用いる道
 具や素材、試作なども展示され、制作の裏側を知ること
 ができます。TASKOがどんな風にもものづくりを工夫して
 いるかを実感し、そのひらめきを追体験してみてください。

[近代美術館 主任学芸員 永松左知]



《ひかりの3原色》



《札幌ループライン》



《パフューマリー・オルガン》



《うかぶ風船》



《FLOWER DISPLAY》



《ししおどし?!》



《TASKOの棚から》

全て©TASKO

企画展紹介 35周年記念 かいけつゾロリ大冒険展

会 期：2024(令和6)年7月5日[金]～9月1日[日]

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日

(ただし7月15日[月・祝]、8月12日[月・振]は開館、7月16日[火]、8月13日[火]は休館)

入 館 料：一般630(520)円/満70歳以上310(260)円/

高大生420(320)円/小中生210(160)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料

※7月6日[土]、13日[土]、20日[土]、8月31日[土]は高校生以下は無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

後 援：朝日新聞水戸総局/茨城新聞社/産経新聞社水戸支局/

東京新聞水戸支局/毎日新聞水戸支局/

読売新聞水戸支局/LuckyFM茨城放送/北茨城市/

北茨城市教育委員会

原 作：原ゆたか

特別協力：ポプラ社

協 力：バンダイナムコピクチャーズ/亜細亜堂/原京子

企画制作：東映株式会社

展覧会の概要

いたずらの王者をめざすキツネの主人公・ゾロリと仲間たちの大冒険を描いた『かいけつゾロリ』シリーズが出版35周年を迎えました。本展では、これまでの大冒険を振り返る原画作品やゾロリが集めた「お宝」も立体作品になって登場します。この夏は魅力たっぷりのゾロリワールドをぜひ、お楽しみください。

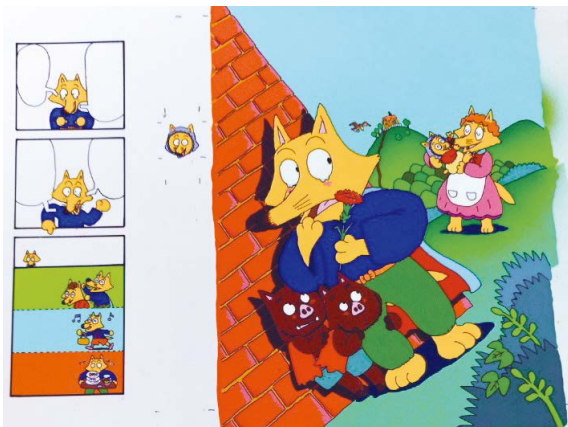
みどころ

- ①『かいけつゾロリ』シリーズの中からとっておきの原画を紹介します。いきいきとしたゾロリたちの表情は魅力たっぷりで、各巻のあらすじや原作者によるコメントなどもあり、作品を読んでいなくても楽しめます。また、ゾロリが集めた「お宝」が本を飛び出し、立体作品になって登場します。なかには驚きの仕掛けがある「お宝」も展示します。
- ②原作者・原ゆたかのアトリエを再現し、アイデアが詰まったスケッチブックやストーリーを考える際に使うカードファイルなども公開し、創作のひみつに迫ります。
- ③《かいけつゾロリつかまる!!》(15巻1994年)の表紙を再現したフォトスポットや、《かいけつゾロリの大金もち》(23巻1998年)で失敗に終わったゾロリたちの悪だくみ「ニセ札づくり」ができるコーナーが登場。ゾロリたちの冒険を追体験することができます。
- ④会期中は、原作者・原ゆたかによるサイン会やギャラリートークを開催します。「かいけつゾロリがやってくる! (撮影会)」や中学生以下を対象とした「かいけつゾロリのおやじギャグスタンプラリー」などのイベントも行います。

[天心記念五浦美術館 主任学芸主事 大津友美]



原画《かいけつゾロリのドラゴンたいじ》1巻
1987年



原画《かいけつゾロリのママだーいすき》9巻
1991年



原画《かいけつゾロリつかまる!!》15巻
1994年



《モナリザ》



《アタンカーメン》



《いもばん》



《黄金のライオン》

©原ゆたか/ポプラ社

企画展紹介 顔展—どうしてそんな表情^{か お}

会 期：2024(令和6)年9月7日[土]～10月20日[日]

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日

(ただし9月16日[月・祝]、23日[月・振]、10月14日[月・祝]は開館。9月17日[火]、24日[火]、10月15日[火]は休館)

入 場 料：一般320(260)円／満70歳以上160(130)円／
高大生210(150)円／小中生150(100)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料

※土曜日は高校生以下は無料

※9月15日[日]～21日[土]は満70歳以上の方は無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

絵画に描かれた人物の顔を見ていると、嬉しそうな笑顔、物思いにふける顔、不機嫌な顔、怒った顔など実に多様な表情をしていることに気付きます。中には、何を考えているのかすぐには分からない顔もあります。

本展は、作品に描かれた人物の顔に焦点を当てた展覧会です。画家は、作品に描いた人物の仕草や様々なモチーフで、人物のプロフィールや、彼らを巡る物語を示し、人物が「どうしてそんな表情をしているのか」を見る人に伝えます。また、「どうしてそんな表情をしているのか」は、作品を見る人の感じ方次第で画家の意図とは違う捉え方がされることもあります。

本展では、横山大観や下村観山、木村武山など「五浦の作家」をはじめとし、歴史上の人物の顔を独自の解釈で描い

た「面構^{つらぐまえ}」シリーズで知られる片岡球子や、能面を連想させる凛とした顔の女性を描いた森田曠平^{こうへい}、また現在活躍中の守みどり、川崎麻央^{あさひ}らによる日本画を展示し、作品に描かれた人物が「どうしてそんな表情をしているのか」を探ります。

みどころ

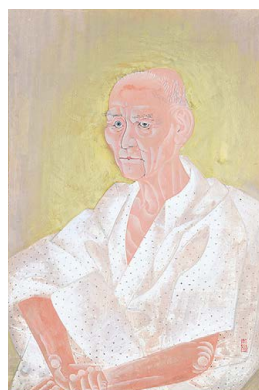
作品に描かれた人物が、「どうしてそんな表情をしているのか」という視点で作品を見てみると、様々な発見があります。中島清之^{しずよし}の《ある肖像》は、眉間に深い皺を寄せた人物が描かれていますが、これは再興日本美術院の重鎮である齋藤隆三の肖像画です。実はこの作品には、興味深いエピソードが残っています。ある時、中島は齋藤の大事な原稿を紛失し、仲間とともに齋藤のもとへ謝罪に行きました。齋藤の叱責中、中島は怒られているにも関わらず突然、齋藤のスケッチを始めたそうです。この作品は、その時のスケッチを元に描かれたものです。眉間の深い皺は、齋藤の威厳を示すとともに、原稿を無くされたことへの怒りを感じさせますが、大きく見開いた目に注目すると、突然スケッチを始めた清之の行動に驚いているようにも見えます。

本展覧会では、肖像画や歴史画、仏画など複数のジャンルから、顔を描いた作品を展示します。描かれた人物たちの多様な表情をお楽しみください。

[天心記念五浦美術館 学芸員 木澤沙羅]



横山大観《朝顔日記》1900年頃



中島清之《ある肖像》1967年



川崎麻央《白兔予祝》2020年



守みどり《光函》2021年



森田曠平《八丈のめならべ達》1959年



小林古径《壺》1950年

全て茨城県近代美術館蔵

令和5年度 新収蔵作品介绍

茨城県近代美術館では、令和5年度に、県内外の皆様から9点の作品をご寄贈いただきました。その結果、令和5年度は1点の管理換え作品を含め、日本画1点、油彩画2点、版画5点、水彩画1点、ガラス絵1点の合計10点が新たに美術館の所蔵品に加わりました。

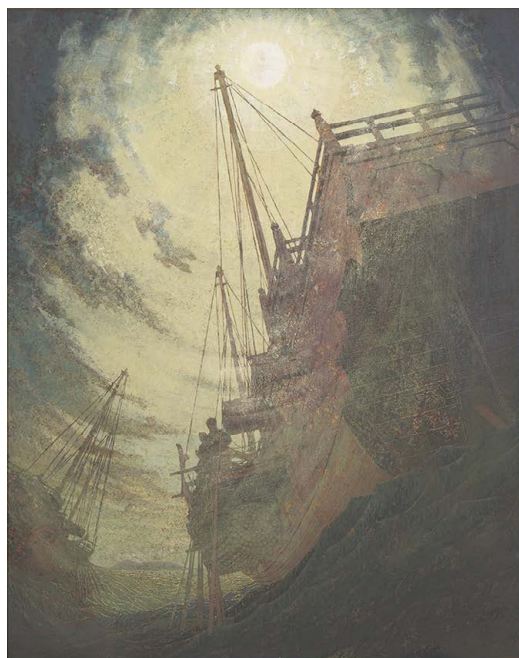
これらの寄贈により、当館のコレクションはより充実したものとなりました。この場をお借りして寄贈者の皆様をはじめ、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

新収蔵作品は、本年度の所蔵作品展の中で順次ご紹介いたします。



清宮 質文《夕べの空へ》
1991年 照沼毅陽氏遺贈

独特の静謐な木版画作品で知られる清宮は、版画と並行してガラス絵、水彩画なども発表しています。最晩年のガラス絵作品である本作には、同時期に繰り返し描いていた夕暮れの情景が表されています。画面中央の蝶も生涯に数多く描いたモチーフです。



仲 裕行《日出ずる国へ》
2022年 作者寄贈（県より管理換）

奈良から平安時代にかけて、日本と唐を往復した遣唐使船を描いています。海面から船のマストを急角度で見上げるダイナミックな構図が特徴です。再興第107回院展で奨励賞、天心記念茨城賞を受賞した作品です。



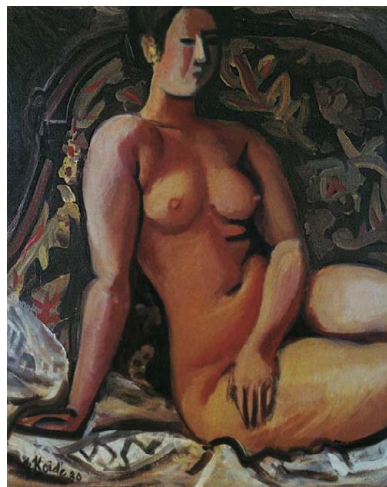
大森 薫子《種の王冠》
2014年 作者寄贈

守谷市在住の大森は、夫の田畑での農作業を手伝う中で、草や土とともに自身も循環する生命・時間の一部であるような感覚を得たといいます。本作でも、自然の色彩や土の感触などが、銅版画の技法により瑞々しく表現されています。



福田 玲子《土の静物「ラスト・ダンス」》
1989年 作者寄贈

取手市在住の福田は、収穫後の畑で朽ちてゆく野菜や果物を“土の静物”と題して描いてきました。本作もその1点で、作者は、枯れてゆくトマトが生き生きとまるで最後のダンスを楽しんでいるかのように見えた、と語っています。



小出 梢重《座せるソファの裸女》
1930年 壺内正徳氏寄贈

大正期を中心に活躍した小出は、モデルの体型を理想化せず、胴長の日本人らしい裸婦像を繰り返し描きました。最晩年の本作では、顔をこちら側に向けてクッションに身をもたせた女性を描いています。

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

—パートナー企業とともに創り上げる芸術文化振興の取り組み—

地域社会への貢献を理念に掲げ、より良い社会づくりに取り組まれる企業等と美術館がパートナーシップを結び、さらなる連携・協働を図っていくことで美術館の活動を一層充実させていく取り組みは5年目を迎えました。

事業の詳細は当館HPでご確認ください。<https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp>

◇令和6年度の事業計画

＜企画展の充実＞

従来の展覧会予算に加え、パートナー企業支援金を有効に活用して、展示内容の充実等を図ります。

今年度は、水戸市出身の洋画家・中村彝(1887-1924)の没後100年を記念して開催する企画展に支援していただきます。

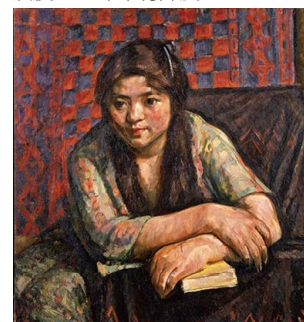
＜教育普及活動の充実＞

小学校の教育活動として来館される場合のバス借り上げ料等をパートナー企業支援金で助成します。展覧会鑑賞をはじめ対話型鑑賞やワークショップ等で子どもたちの豊かな感性と創造性を育みます。昨年度までに82校3,024人が参加され、今年度も22市町村の小学校27校から1,140人が来館予定です。

＜広報活動の充実＞

パートナー企業の支援金や役務の提供により、これまでにない積極的な広報活動を展開していきます。

没後100年中村彝展

中村彝《少女》1914年
株式会社中村屋蔵

対話型アートツアー①



対話型アートツアー②



常陽銀行デジタルサイネージ



関東鉄道駅貼りポスター



茨城交通バス車体広告



イオンモールアプリ



＜トピック＞

パートナー企業と当館で組織する「茨城県近代美術館運営支援協議会」は、中村彝没後100年にあたり開館時に敷地南側に新築復元した「中村彝アトリエ」周辺を魅力ある憩いの場としてリニューアルするためにクラウドファンディングを実施します。

詳細はこちら

https://readyfor.jp/projects/NAKAMURA_Tsune

パートナー企業の皆様



近代美術館友の会



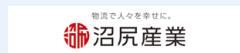
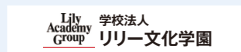
関東鉄道株式会社



AEON MALL



茨城交通



茨城県近代美術館

《企画展・関連イベント》

《石岡瑛子Iデザイン》

4月27日[土]～7月7日[日]

・ギャラリートーク／講演会
日時：6月29日[土] 午前11時～午後3時
講師：河尻 亨一氏（本展監修者、作家、編集者）
会場：企画展示室／講堂

《つくる展》

TASKOファクトリーのひらめきをかたちへ

7月20日[土]～9月23日[月・祝]

・TASKOワークショップ「テンセグリティをつくろう！」
日時：7月20日[土]、8月18日[日] 各日とも午前10時30分～午後2時～午後3時30分
講師：TASKO
会場：地階講座室

対象：小中学生（小学生は保護者同伴）

定員：午前午後各回15名

※要事前申込（Webのみ）／要企画展チケット及び参加費お子様のみ1人50円（行事保険加入料）

※申込開始：6月30日[日] 午前9時、定員に達し次第締切

・コンサート＆ワークショップ「キンミライガッキ！さわってあそべる楽器店」

日時：9月1日[日] 午前11時～、午後1時～、午後3時～

※各回20分程度

出演：キンミライガッキ

会場：1階エントランスホール（参加無料、申込不要、定員なし）

《所蔵作品展 第1展示室》

《日本の近代美術と茨城の作家たち 夏》

前期6月25日[火]～8月4日[日]

後期8月7日[水]～9月21日[土]

《所蔵作品展 第2展示室》

《フシギな作品、大集合！》

6月25日[火]～9月21日[土]

《アートフォーラム展示》

《油彩画の技法》

4月16日[火]～7月15日[月・祝]

《こどもの広場》

7月17日[水]～9月23日[月・祝]

《その他のイベント》

・家族でわくわくミュージアム

日時：7月14日[日] 午前10時30分～ 幼児＋大人（保護者）

7月19日[金] 午前10時30分～ 乳児＋大人（保護者）

7月20日[土] 午後2時～ 小学生＋大人（保護者）

会場：1階所蔵作品展展示室他

定員：乳児10名程度／幼児・小学生15名程度

※要事前申込／要所蔵作品展チケット（土曜日は高校生以下無料）

・子どものためのオープンワークショップ 2024夏

日時：8月23日[金]～8月24日[土] 午前10時～正午、午後1時30分～午後3時30分

※最新の情報を各館ホームページ等でご確認ください。

会場：地階ワークショップ会場 ※参加費 50円（行事保険加入料）

※各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

《美術講演会》

日時：9月29日[日] 午後1時30分～

講師：林 みち子氏（筑波大学芸術系准教授）

会場：2階アルスホール

《土曜講座》

時間：各日午後1時30分～

会場：2階講座室

料金：無料

7月27日[土]

・第4回「よみがえる美術作品 修復をめぐるいくつかの対話」

【講師】永松 左知（茨城県近代美術館主任学芸員）

8月10日[土]

・第5回「陶芸の多様さを巡る」

【講師】塚田 巧（茨城県陶芸美術館主任学芸員）

9月14日[土]

・第6回「顔—どうしてそんな表情—」

【講師】木澤 沙羅（茨城県天心記念五浦美術館学芸員）

《ギャラリー展》

7月2日[火]～7月7日[日]

・武蔵野美術大学校友会 第21回茨城支部展 【総合】

7月9日[火]～7月21日[日]

・令和6年度茨城県移動展覧会「茨城の美術セレクション」 【絵画】

7月23日[火]～7月28日[日]

・第7回日中韓芸術展 【総合】

7月30日[火]～8月4日[日]

・第66回茨城二紀展 【絵画】

8月24日[土]～9月1日[日]

・夏休みアート・マルシェ2024作品展 【絵画】

9月3日[火]～9月8日[日]

・第1展示室…つくばの建築士展 【建築】

・第2展示室…第28回七彩会展 【絵画】

9月10日[火]～9月16日[月・祝]

・西陣美術織 伊藤若冲展 【織物】

9月18日[水]～9月23日[月・祝]

・紫流書道会 学生展 【書】

9月25日[水]～10月6日[日]

・画業50年記念 斎藤 茂男 展 過去・現在・未来 【絵画】

茨城県天心記念五浦美術館

《企画展・関連イベント》

《35周年記念 かいつゾロリ大冒険展》

7月5日[金]～9月1日[日]

・原作者・原ゆたか氏サイン会

日時：7月27日[土] ①午前10時30分～ ②午後2時30分～

定員：各回30名 ※要ゾロリ展入場券（半券可）、要事前申込、抽選制

会場：企画展示室出口

申込期間：7月9日[火] 午後4時まで

・原作者・原ゆたか氏によるギャラリートーク

日時：7月27日[土] 午後1時～

会場：企画展示室 ※要ゾロリ展当日入場券、申込不要

・かいつゾロリがやってくる！〈撮影会〉

日時：8月3日[土] ①午前11時30分～、②午後1時30分～、③午後2時30分～

定員：各回50組 ※要ゾロリ展入場券（半券可）、要事前申込、抽選制

会場：展望ギャラリー

申込期間：7月12日[金] 午後4時まで

・かいつゾロリのおやじギャグスタンプラリー

館内のラリーポイントをさがして6種類のスタンプを集めよう！

すべて集めた方に「認定証」をプレゼント！

参加対象：中学生以下

※ラリー用紙は入場券1枚につき1枚配付します。

《顔展—どうしてそんな表情—》

9月7日[土]～10月20日[日]

・展覧会担当者によるギャラリートーク

日時：9月15日[日]、10月5日[土] 午後1時20分～

会場：展示室 ※要企画展当日入場券、申込不要

・ワークショップ「お面を作ろう～KAO・かお・顔」

日時：10月12日[土] 午前10時～、午後1時30分～

会場：講座室

定員：各回20名程度 ※要企画展入場券、当日先着順

《その他のイベント》

・お宝砂子deバッチ

日時：7月6日[土] 午前10時～、午後1時30分～

会場：講座室

定員：各回20名程度 ※要企画展入場券、当日先着順

・天心書斎障壁面ツアー

日時：8月10日[土] 午前10時～午後11時

会場：岡倉天心記念室 ※要当日入場券、当日先着順

定員：30名

・来て・見て・発見！アートツアー for kids

日時：9月14日[土] 午前10時～

会場：展示室、講座室

定員：小中学生と保護者5組（1組4名まで）

※要事前申込（先着順）、保護者のお要企画展入場券

《映画会（五浦名画座）》

会場：講堂

定員：各回114名（当日受付先着順・申込不要）／無料

時間：午前の部9時45分～、午後の部1時30分～

・7月14日[日] 「自転車泥棒」88分

・8月11日[日] 「ラゲリより愛を込めて」134分

・9月 8日[日] 「名探偵ホームズ黒馬車」119分

・10月13日[日] 「ボネット」97分

《貸ギャラリー展》

・9月7日[土]～9月23日[月・祝]

「FROM展」

・9月26日[木]～10月6日[日]

「第40回北茨城市美術文芸展覧会」

・10月9日[水]～10月18日[金]

「令和6年度第33回北茨城市小中学校美術展覧会」



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大津町橋2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中！詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

○土曜日来館の高校生以下の方（ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます） ○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務・中等教育・特別支援学校（県外含む）の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者 ○国際交流事業として国外から本県に留学している方 ○児童福祉施設、身体障害者更生支援施設、知的障害者支援施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

<お知らせ>

①新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、友の会の行事もコロナ以前の状況に戻りつつあります。トルコへの海外美術鑑賞旅行も滞りなく実施することができました。

今年度も美術鑑賞旅行や講習会、ギャラリートーク、講演会等を計画しておりますので、会員の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。茨城県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金を現金でお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。また、茨城県近代美術館友の会ホームページからも申し込むことができます。

詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局（☎029-243-5111）にお問い合わせください。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。

<https://fmoma.com>

